

一般社団法人京都府サッカー協会
京都 FA カップ[®] 2020 第 25 回京都サッカー選手権決勝大会
運営ガイドライン

第 2 版（2020 年 8 月 3 日修正）

一般社団法人京都府サッカー協会 事業委員会

本ガイドラインは、会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加者に対し、感染防止のために遵守すべき事項をまとめたものです。

また、京都 FA、大会及び参加チームはそれぞれ感染対策責任者を設置し、事前、当日、事後に相互に連絡を取り合える環境を構築することとします。

感染対策責任者

〈京都 FA〉

山下和良（副会長兼専務理事）、本城邦晃（医学委員長）、丸山展生（事務局長）

〈大会（種別・委員会）〉

小川 猛（事業委員長）

〈参加チーム〉

社会人 2 チーム：おこしやす京都 AC ○○○○○

社会人 2 チーム：AS. ランジャ京都 ○○○○○

大学 2 チーム：京都産業大学 ○○○○○

大学 2 チーム：立命館大学 ○○○○○

1. 事前の対応

参加者への連絡事項

本大会の感染対策責任者は参加者に対して事前に求める感染拡大防止のための措置として、以下の項目を本大会に関わるすべての方に周知徹底します。（参加チーム、メディア、運営に関わる役員、審判員、会場スタッフ、ボランティア、その他関係者）

なお、以下の項目の実行が難しいと判断した場合は、京都府において集会・イベントの開催が許可された状況下にあっても、イベント等を中止・延期とする可能性があります。

- (1) 以下の事項に該当する場合の自主的な参加の見合わせ（イベント等当日に書面にて確認）
 - 体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) 参加者全員がマスクを着用すること
- (3) 参加者全員が健康チェックシートを作成し会場にて提示すること *
- (4) 京都 FA が示す注意事項を遵守すること
- (5) イベント中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、その時にマスクを着用していたかなど、他人との接触状況の記憶（感染者発生発覚の際の濃厚接触者特定に役立ちます）

* 健康チェックシートには以下の事項を記載してもらいます。（別紙）

- ① 氏名、生年月日、住所、連絡先（電話番号、Email アドレス）

- ② イベント2週間前から当日までの体温
- ③ 競技会前2週間における以下の事項の有無
 - 平熱を超える発熱
 - 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
 - だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - 臭覚や味覚の異常
 - 体が重く感じる、疲れやすい等
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

2. 会場における感染防止対策

本大会では、以下の点に留意して会場の設営・運営を行います。

(1) 諸室

使用する諸室等において、以下の対応を行います。

- 各部屋にアルコール消毒液を設置する。
- 全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
- ドリンクを冷やすためのイベントクーラーおよびクーラーボックスは使用しない。
- 座席を設置する際に前後左右1.5～2m間隔を明け、お互いが正面に座らないよう配慮する。
- 喫煙所は設けない。

(2) 手洗い場所

関係者、参加チーム、マッチオフィシャルが手洗いをこまめに行えるよう、以下の対応を行います。

なお、手洗い後に手を拭くためのタオルは、各自用意していただきますようお願いいたします。

- 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する。
- 「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- アルコール消毒液を設置する。

(3) トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、以下の対応を行います。

なお、手洗い後に手を拭くためのタオルは、各自用意していただきますようお願いいたします。

- 便器の蓋を閉めて汚物を流すよう表示する。
- 手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する。

- 「手洗いは30 秒以上」等の掲示をする。

(4) ロッカールーム

ロッカールームは、3つの密が揃うため、感染リスクが比較的高くなります。これを踏まえ、ロッカールームについて以下の対応を行います。

- 広さにはゆとりを持たせ、利用者同士が密になることを避けること。
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる。
- 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子、マッサージベッド等）については消毒する。
- 1日に同会場で複数試合を行う場合は、試合終了毎に消毒する。
- 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う。

チームの注意事項

- 選手及びスタッフはマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- 選手及びスタッフはロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- 選手及びスタッフはシャワーを交代で使用し、密集を避ける。

(5) 審判控室

審判控室は、3つの密が揃うため、感染リスクが比較的高くなります。これを踏まえ、審判控室について以下の対応を行います。

- 広さにはゆとりを持たせ、利用者同士が密になることを避けること。
- ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する、別室を用意する、または外部にテントを設置する措置を講じる。
- 室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については消毒する。
- 換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う。

審判員の注意事項

- 審判員はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- 審判員はロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- 審判員はシャワーを交代で使用し、密集を避ける。
- 審判員同士のミーティングは会場で3密とならないスペース等を探して実施する。

(6) ベンチ

ベンチで間隔を空けて座れるようする。足りない場合は、テント等で追加ベンチを設置する。

1日に同会場で複数試合を行う場合は、試合終了毎にベンチの消毒を行う。

(7) 来場者対応

無観客で実施する。

※観客を入れる場合

観客を入れる、または限定的に入れるの判断は京都府の方針に従うこと。観客を入れるためには運営エリアだけでなく入退場ゲート、観客席、コンコース等においても感染防止対策を講じること。

以下の項目の実行が難しいと判断された場合は、京都府において同規模の集会やイベントの開催が許可された状況下にあっても、無観客試合を検討すること。

事前通達

観戦エリアにおいて3つの密を避ける対応が必要となります。観戦者に対し、以下の留意事項を事前にホームページ等で周知徹底すること。

- 体調の悪い人は来場を控えること
- 来場する際はマスクを着用すること
- 大声での声援や大旗を使つての応援は行わないこと
- 場内ではそれぞれ2mの間隔を保ち、ハイタッチ、抱擁、肩を組むなどの行為は控えること

試合当日

- 試合会場各所（入退場ゲート、トイレ等）にアルコール消毒液を設置する。
- 入場時にサーモグラフィーまたは体温計による来場者の体温チェックを実施する。体温チェックが難しい場合は、入場ゲートに人員を配置し、体調の悪い人への観戦自粛を促すアナウンスを徹底する。
- 飲食売店の運営は、安全対策に十分配慮した上で判断する。運営する場合は、ドブ漬けを使用したドリンクの販売は行わない。また、アルコール類の販売も当面は行わない。
- 喫煙所は設けない。
- 場内アナウンス、電光掲示板等で、上記「事前通達」事項のアナウンスを随時行い、守らない方には直接注意する。
- 注意しても改善されない場合は退場してもらうなどの措置を講じる。

(8) マッチコーディネーションミーティング（MCM）における伝達事項

感染対策責任者はMCMに出席し、運営に関わる注意事項、依頼事項として以下の項目をMCM参加者に伝えます。

- 試合前、試合後に相手チーム、審判団との握手は実施しない
- 両チームベンチへの挨拶を実施しない
- エスコートキッズは実施しない
- 円陣はしない
- 倒れた選手に手を貸さない

- 得点時にハイタッチ、抱擁を行わない
- ピッチ内でも咳エチケットを守り、つばを吐く、手鼻をかむなどの行為を行わない
- 口に含んだ水を吐かない
- ボトルを共有しない
- 水・氷を溜めたイベントクーラーおよびクーラーボックスを共有しない
- タオルを共有しない
- ピッチ上でチームメイト、審判員と会話する際にも互いの距離についてしっかりと配慮する
- ベンチではマスクを着用し、会話を控える
- ビブスを共有しない
- 水分補給を行いやすいよう、飲水タイムやクーリングブレイクを柔軟に設定すること
- ロッカールーム、審判控室利用後の清掃と消毒を行う

※上述の伝達事項は、参加チームが競技会参加にあたり留意すべき事項でもありますので、本大会感染対策責任者から各チームの感染対策責任者に事前に伝達すること。

(9) メディア対応における注意事項

事前準備

取材申請を事前に締め切り、3つの密を避けるための取材者の人数調整を行うとともに、更に取材者に対して以下の内容について事前に感染防止対策を周知する。

- 会場の設備に合わせて、3つの密にならないように取材者の人数を事前に調整します。
- 試合を取材するメディアの方は、次に記載されている内容を遵守すること。
 - (ア) 以下の事項に該当する場合は自主的に来場を見合わせること
 - 体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - 同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
 - (イ) マスクを常時着用すること
 - (ウ) 健康チェックシートを作成し入場時に提示すること
 - (エ) 競技会に参加する上で主管 F A が示す注意事項を遵守すること
- 取材申請時に健康チェックシートを送付し、当日受付で提示してもらってください。

※事前に申請なき場合は、会場内への入場をお断りします。

試合会場のメディア設営

競技者とメディアの不要な接触を避けるためのメディア動線を作成し、以下に留意して設営を行う。

- メディア控室や記者席では、各記者が前後左右1.5m～2m間隔で座ることができるよう、座席を配置する。

- メディア控室や記者席の入口にアルコール消毒液を設置し、全てのドア及び窓を開けっ放しにする。
- 3つの密を回避できる部屋がない場合、メディア控室を設置しないことも検討する。この場合、取材するメディアに控室がないことを事前に周知する。
- 本大会では記者会見場を設置せず、ミックスゾーンを利用してメディア対応する。
- ミックスゾーンにおいても換気を十分行い、取材中、選手取材者が2mの距離を保てるように、ブラ柵等を設置する。

当日のメディア運営

健康チェックシートを提出してもらうとともに、体温計を準備して、メディア受付時に検温を実施する。またメディアの方へ以下の注意事項をお伝えすること。

- 常時マスクを着用し、不必要な会話を控える。
- 代表質問を行うなど、取材者の人数も必要最小限となるように調整する。
- 選手との距離は2m以上取り、取材者同士も、最低1m間隔を保つ。
- できるだけ短い時間で取材を終える。

(10) ゴミの廃棄方法

ゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用してください。ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄してください。マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒してください。

これら(1)～(10)を実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。その点を理解した上で、競技会に参加してください。

また、各諸室の窓、ドアの開放、運営関係者及びチーム関係者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まります。こまめな水分補給を心掛けましょう。

3. 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、大会当日の参加者（参加チーム、メディア、運営に関わる役員、審判員、会場スタッフ、ボランティア、その他関係者）は、作成した健康チェックシートを、少なくとも1ヶ月は各自で保管してください。

大会感染対策責任者は試合後3日以内に、具合の悪い選手・スタッフがいないかの確認を参加チーム感染対策責任者に行うこと。

万が一運営スタッフの中から試合終了後14日以内に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合は、所管の保健所の指示に従うとともに京都FAにその旨ご報告ください。また、参加チームから試合終了後14日以内に感染者が発生した場合にも、同様の対応をお願いします。

以上

※健康チェックシートへの記載事項

- ① 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号、Email アドレス※個人情報の取扱いに十分注意）
- ② イベント 2 週間前から当日までの体温
- ③ 競技会前 2 週間における以下の事項の有無
 - 平熱を超える発熱
 - 咳（せき）、のどの痛みなどの風邪症状
 - だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）
 - 臭覚や味覚の異常
 - 体が重く感じる、疲れやすい等
 - 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 過去 1 4 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合